

伝統の技などさまざまな技術を受け継ぐ若き担い手にスポットをあて、その仕事への思いなどを語っていただきます。

「一刀彫りって、1本の木から作るもの  
のことをいうんじゃないんですか？」

多くはそうなんですけど、大きな作品になると木をつないで作ったりします。もともと一刀彫りとは、一刀一刀精神を込めて作品を作るといって、それがきているんですよ。



## 今話題の「平清盛の時代」に 奈良で生まれ、それから ずっと引き継がれてきた 伝統の技。

奈良一刀彫り作家 前田 浩幸さん(30歳)



奈良一刀彫りは、平安時代末期、春日若宮おん祭に用いられたことに始まる。ノミで力強く彫り上げた豪快なタッチと、金箔や岩絵具などによる綿密な彩色との、絶妙なバランスが魅力。能狂言ものや動物もの、ひな人形などがある。

では、どうやって作るんですか？

### ① 荒彫り

簡単に言いますと、まず原木にデザインを描き、大きなノミを木づちでたたきながら大胆に彫ります。ここで作品の骨格が決まるので、最も重要な過程です。頭の中で完成図を描きながら彫ります。



荒彫り 原木

### ② 木地仕上げ

その後、鋭利なノミと小刀を生かして面の構成を整えます。荒



木地仕上げ

彫りの良さを失わないよう注意する必要があります。

### ③ 彩色

形が完成した後、岩絵具という鉱物質でできた天然物の絵の具や、金箔などで色を付けて完成です。



彩色

この一刀彫りを始めたきっかけは？

僕は鳥取県出身で、以前は大阪で就職していました。でも、小さい頃から自分の手で何かを作る仕事がしたいと思っていて、インターネットで「なら工芸館」の工芸相談を知り、大阪から近かったのでも来てみたんです。そこで師匠である館長に出会ったのがきっかけですね。

親御さんに反対されたり  
しませんでしたか(笑)？

最初は反対されましたが、恩師の勧めもあつたりして、賛成してくれましたよ。そして奈良市の「奈良伝統工芸後継者育成研修」に応募して、そこで奈良一刀彫りの基礎を学ばせていただきました。

ものづくりをされている人って、  
普段はどんな生活なんですか？

朝から晩まで、ご飯のとき以外は

作品づくりをしていますよ。そんなもうかる仕事ではないので、ギリギリの生活をしています(笑)。でもデザインを考えているとき、ノミで彫っているとき、色を付けているとき、作品が売れたとき、どの瞬間もやりがいがあります。楽しいんです。

### 師匠からひとこと

文化を守り育てていくには、お金と時間がかかります。昔の人の絶え間ない努力のおかげで、現在もお伝統文化が受け継がれ、奈良の良さの一つとなつています。しかし、現在はその伝統文化を引き継ぐ後継者が少なくなっています。伝統工芸の後継には、それが好きであるということが一番大事です。興味がある方はぜひ一度、工芸相談に来てください。



「なら工芸館館長で、奈良一刀彫りの第一人者である神善 勝さん」



ひな人形

前田さんの作品は、なら工芸館(☎0742・27・0033)や商工観光館(近鉄奈良駅 東北出口からすぐ)などで購入できます。